

〇〇さま

〇年〇月〇日開催〇〇入札ご提案銘柄

(本サイト掲載時に、コインの写真は著作権に配慮して割愛させていただきました。
以下のロット順に「最大応札額」に達するまでビッドを入れ、お客様ごとのご予算額に達するまで、セリに参加し続けてゆくという進め方です。なお文中の赤字部分は実際に落札された金額と成否です。)

1. #〇〇〇〇 カンボジア 1902 年贈呈用 1 フラン金貨

フリードバーグカタログ未掲載、ごくわずかのみ贈呈用 (Souvenir) に打たれた金貨です、オリジナルのコインは 1860 年に造られています、このコインはそのコインの複製版で 1902 年に造られています。判断の難しいコインですがハンマープライス 100 万円までならもっておいてソンはないでしょう。1 フランサイズですから小さなコインです。

状態：NGC-MS64

最大ハンマープライス：105 万円 (総支払額ベース：約 127 万円)

(実際の落札額：130 万円) ⇒落札できず

2. #〇〇〇〇 カンボジア 1860 年 (リストライク) 贈呈用 2 フラン金貨

#1054 と同じデザインですが、こちらはフリードバーグカタログにも掲載された金貨です、このコインはオフメタル (Off Metal) といって、こともと他の金属で造られたコインの刻印を用い金属のみを変えて打たれたコインです、このコインのオリジナル貨は 2 フラン銀貨です。ケースに Restrike とありますが、少しややこしいですが、この Off Metal 貨にもオリジナルがあり、それを再度鋳造したコインという意味です、おそらく #1054 と違ってある程度の枚数を作ったのだと思います。近年カンボジアはじめアジアのレアコインの見直しが始まっており相場も上昇中です、フランスの造幣局に委託して造ったものなので、特に裏面はきれいなデザインです、このコインには倍のサイズの 4 フラン、さらにその上には 1 ピアストル (このコインの 5 倍サイズ) まであります、なので本貨はせいぜい中ぐらいのサイズではありますが、将来人気化すると思います。上記#〇〇〇〇とペアで持たれるといいでしょう。

□状態：NGC-MS64

□最大ハンマープライス：250万円（総支払額ベース：約300万円）

（実際の落札額：160万円）⇒落札成功

3. #〇〇〇〇 イギリス東インド会社発行、ウィリアム4世の2モハール1835年

前回のリベンジです、今年8月のヘリテージでは同銘柄のPR66★にチャレンジしましたが、ハンマープライスは何と170,000ドルまで伸び全く歯が立ちませんでした、今回のコインは状態がPCGS-PR63と3ランク落ちますが、それでも十分状態の良いコインです。このところ英領インドやイギリス東インド会社の金貨の相場上昇が目立ちます、ハンマープライスベースで580万円は見ておく必要があります。

□状態：PCGS-PR63

□最大ハンマープライス：580万円（総支払額ベース：約700万円）

（実際の落札額：600万円）⇒落札できず

4. #〇〇〇〇 ドイツ領ニューギニア5マルク、ブルーフ銀貨1894年

きれいに極楽鳥がデザインされた有名なコインです、通常貨とブルーフ貨がありますが、このコインはブルーフです、このコインのPF63までは時々市場に出てきますが、Pf64はめったに出てきません、さらに表目がカメオ状に美しいコインに対して付記されるCameo評価です、人気化間違いなしですがもしHP380万円以内におさまるならカイでいいと思います。

□状態：PCGS-PR64 CAMEO

□最大ハンマープライス：380万円（総支払額ベース：約460万円）

（実際の落札額：280万円）⇒落札成功

5. #〇〇〇〇 イギリス領インド発行、ヴィクトリアの1モハール1870年ブルーフ

#〇〇〇〇は英国東インド会社発行ですが、こちらはイギリスがインドを植民地化し、イギリス東インド帝国発行です、上記銘柄同様、このところ人気が出てきました、僕

の記憶では2005年あたりに一度英領ドルのコインが急騰したことがあります、それまではモハールの通常貨が10-20万円もだせば変えたのですが、急騰以降は30-50万円が相場になりました、当時僕は反落を懸念しましたが杞憂に終わりました、それ以降しばらく動きはなかったのですが、今年に入ってまた値上がりが始まっています、現在のモハール通常貨の相場（MS62程度）は60-70万円です、きっといままでが安すぎたのだと思います。プルーフ貨は通常貨よりやや高めの値段が付きます、8月のヘリテージで同銘柄PR65が12,000ドルで落札されました、本貨はPR64ではありますが、この2月の相場上昇をどう読み込むかがポイントです。

□状態：NGC-PF64

□最大ハンマープライス：150万円（総支払額ベース：約180万円）

（実際の落札額：140万円）⇒落札成功

6. #〇〇〇〇 帝政ローマ、セウエルス・アレキサンドル（AD222-235年）スターテル

#1624は帝政ローマ、セウエルス・アレキサンドル時代のアウレウスです、この皇帝自身は影が薄く最後は暗殺されていますので、例えばアウグストゥスやハドリアヌスのようなきらびやかな経歴で人気があるということはありませんが、状態の良さは一級品です。NGC社の評価でGem MSとありますが、MSの上Ch MSのさらに上Gem MSです、しかもFine Styleと最後についていますが、これは全体的にバランスが良いコインにへのプラスの評価です、いままで多くの帝政ローマを見てきましたが、もしかしたら初見かもしれません、それだけ稀な状態です。

□状態：NGC-Gem MS Surface5/5,Strike5/5 Fine Style

□最大ハンマープライス：410万円（総支払額ベース：約495万円）

（実際の落札額：420万円）⇒落札できず

7. #〇〇〇〇 ドイツ、ハンブルグ、ポルトガレッサー1886年

ポルトガレッサーは1600年以降ハンブルグの銀行が預金に対して利息代わりに贈呈し

てきたメダルです、金貨ではないのでご注意ください、ただし最初のころは金貨同様に使用されていたそうです、ポルトガレッサーの魅力はデザインの美しさです。裏面はハンブルグの市庁舎で成功に造りこまれています、17世紀のポルトガレッサーなら優に1000万円をこえますが、この時代になると以下のような価格で入手可能です。

□状態：NGC-MS63(同社の最高鑑定)

□最大ハンマープライス：95万円（総支払額ベース：約115万円）

（実際の落札額：240万円）⇒落札できず

（株）銀座なみきFP事務所

2020.11.20